



# 戦時下の学校と子供たち (1)

昭和12年・日中戦争  
昭和16年・国民学校令公布まで

今から約70年以上前、日本は中国やアメリカなど世界の国々を相手に戦争をしていました。

子供たちは、どんなことを教えられていたのでしょうか？  
どんな願いを持って暮らしていたのでしょうか？

## 1. 日中戦争が始まる

戦争とのつながりを深める学校

(昭和12年~14年頃)

昭和12年(1937)日中戦争開戦と共に、国民生活も学校も、急激に戦時色に包まれていきました。

各学校の朝会では神宮遥拝・宮城遥拝(皇居に向かって敬礼すること)



武運長久を祈る小学生達

が始まりました。そして、登下校時に奉安殿(天皇皇后の写真と教育勅語が納められていた)の前を通る時は最敬礼をするように言われました。一方、「反国家的言動をする者を排除せよ」という働きかけが強まり、大正以来の「生徒の自主性を尊重ぶ教育」は批判されるようになりました。

更に国民思想統一のため、政府が準国歌として公募・選定した「愛国行進曲」「兵隊さんよありがとう」などは盛んにラジオで流され、学校でも教えられました。それらは「日本は皇国。天皇が治められる我が日本は世界の中で一番立派な国です」「お国のために戦っている兵隊さんありがとう」「私たち臣民も頑張ります」等の内容が歌詞に入ったものでした。中国との全面的な戦争に拡大する中、岐阜駅における出征兵士の見送



無言の戦死者の帰還  
—金華橋通り—

りや傷病兵や遺骨の出迎えなどが盛んになり、学校の児童生徒も動員されるようになりました。また、戦地への慰問文を書くことや女学生による千人針作りが行われました。そして南京陥落など戦勝祝賀の旗行列・提灯行列などは、必ず児童生徒の参加行事として位置付けられました。

## 「奉安殿奉拝や出征兵士の見送り」

(昭和4年生まれの子どもの話)

奉安殿は全ての公立学校に置かれていて、「奉安殿前を通る時は最敬礼をせよ」と、私たちは厳しく言われていました。特に厳しい学校では、教師が現場で「やり直し！」等と注意しました。奉安殿の中の御真影と教育勅語は、四大節(元日・天皇節・明治節・紀元節)にのみ持ち出されて式場に掲げられ、校長が勅語を

## 昭和14年度における梅村小学校の実施回数

- ・出征兵士の見送り・遺骨などの出迎え 16回
- ・防空演習 16回
- ・武道講習会 7回

—梅村小学校学校日誌より—

## 「その頃の日本人は？」

(昭和9年生まれのKさんの話)

私たちは、「日本良い国強い国、世界に一つの神の国、日本良い国強い国、世界に輝く偉い国」「日本は天皇が治められる世界一の素晴らしい国」と教えられました。

朝鮮や中国などアジアの国々については、日本より劣る国という意識が強く、国民の殆どが差別意識を持っていたように思います。中国のことは「支那」、アメリカやイギリスなどを「鬼畜米英」と言っていました。そして「大東亜共栄圏の建設を！」「正しき平和うち建てん！」と喜んでいました。

この頃から中国とベトナム、ラオスなどの戦場では犠牲者が増え、更に多くの出征兵士を戦地へ送らなければならなくなりました。そこで、召集令状によって20歳から40歳の多くの男子を、戦地へ送りました。するとますます工場労働者や農村の働



大東亜共栄圏の授業  
長良国民学校

き手が少なくなり、生活用品や食料品などが不足していきました。

## 3. 「われら少国民」

小学校は国民学校に。

(昭和16年)

昭和16年(1941)3月、国民学校令が公布され、小学校は国民学校となりました。

子供たちは「少国民」と呼ばれ、軍事体制下に組み込まれました。学校は、①銃後の守り②戦意の昂揚③体力増進心身鍛練④食糧増産⑤資源回収の実践を求められました。

町も農村も、食糧不足・人手不足・肥料不足が深刻になりました。そこで食糧増産のため青少年・生徒たちは勤労動員され、出征兵士がいる農家の手伝いや各々での農場の開墾、農産物生産などが行われました。



開拓農場で働く  
金華国民学校生

## その頃の学校制度

(〇は義務教育)

- 国民学校初等科 1年生(6歳)~6年生(12歳)
  - 国民学校高等科 1年生(13歳)~2年生(14歳)
  - ・中等学校(男) 1年生(13歳)~5年生(17歳)
  - ・高等女学校(女) 1年生(13歳)~5年生(17歳)
- ・その他に、盲学校、聾哑学校、実業学校、青年学校、師範学校、女子師範学校、高等学校高等科、専門学校、帝国大学、商科大学、医科大学などがありました。  
(※中等教育以上は年齢関係なしの複線でした。)

以前から「体験を通して生活に役立つ勤労教育」に継続的に取り組んでいた金華国民学校でも、今まで以上に熱心に校庭や川原を畑にしたリ堆肥や炭を作ったりする勤労奉仕活動に取り組みました。そして、どの学校でも「サツマイモ作り」「動物飼育」などの勤労教育が行われるようになりました。

○この文章は、「岐阜県史」「岐阜市史」「写真集・目で見る岐阜市民の100年」「岐阜県教育史」などを参考に、後藤征夫がまとめた。

岐阜市歴史博物館ボランティア

「お話・岐阜の歴史サークル」

代表 後藤 征夫

http://bookgeocities.jp/gifuueki/

http://bookgeocities.jp/gifuueki/

TEL058-231-6726